

JOMF 派遣医師便り (2013. 9)

◆シンガポール◆

HIV/AIDS

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

2012年、シンガポール国民または永住権保持者で新規にHIVに感染していることがわかった人の人数は469人でした。これは実数として過去最多の数字ですが、国民および永住権保持者(381.2万人)人口100万人当たりにはすると122.8人で、2008年の125.2人、2009年の124.0人に次ぐ3番目の多さとなります。

ちなみに2012年のシンガポールの居住人口は531.2万です。つまり永住権保持者でない外国人が150万人(居住人口の28.8%)も住んでいることになるわけですが、この集団の中のHIV/AIDS患者さんの数は発表になっていません。この集団の中にも感染者が現れることも当然ありえますので、実際にはもっとHIV/AIDS患者数は多いかもしれません。この数がどれくらいかは統計としては発表されていませんが、これは外国人でHIV陽性者は基本的には国外退去となり、国内にとどまることはできないというきまりがあるからかもしれません^{註1}。

基準人口や患者の区分けが異なりますので、日本との厳密な比較はできませんが、日本では2012年HIV/AIDSの日本国籍保持者の新規報告数は1305件でした。総人口から永住権を持たない外国籍居住者を差し引いた約1億2千7百万人と比べますと、100万人当たり約10.3人となります。

これを単純に比較しますと、なんとシンガポールの患者発生率は日本の10倍以上の高さとなってしまいますが、これには検出率の違いがあるのかもしれませんが^{註2}。

男女比は日本でもシンガポールでも90%以上が男性です。シンガポールでは同性愛者の比率は45%で、両性愛者6%を含めても51%ですが、日本では同性愛者の比率が66%と高くなっています。その他、母子感染はともに報告はなく、静脈薬物使用によるものはシンガポールで2件、日本で5件となっています。

HIV/AIDSは、現在においては、早期発見し治療を開始すれば、その他の慢性疾患のように長期生存が見込める疾患となってきています。それに伴い、今後HIVとともに生きる人々(People Living with HIV/AIDS)の数が増えることとなります。

そのため、他の国と同様、シンガポールでもHIV/AIDS患者に対する差別や偏見をなくす努力がされ、また、そうすることで、さらに早期発見を促し、感染の拡大を食い止めようとする動きが見られます。

シンガポール保健省 (Ministry of Health) および健康増進局 (Health Promotion Board) は HIV に感染しないようにと <ABCD 原理> というものを提唱し喧伝しています。それは

A : Abstinence, 禁欲、制欲

B : Being faithful, 誠実であること

C : Correct and consistence use condoms コンドームを正しく、首尾一貫して使う

D : early Detection 早期発見

というものです。

もちろん、こうした基礎的対策は最も大切ですが、危険を伴う性行為を行った場合には定期的な検査が進められます。

そうすることにより早期治療を開始できますし、パートナーの安全も図れます。検査は多くの医療機関で可能ですし、いくつかの場所では匿名の検査も可能です。

こうした知識を広めるため、保健省や健康増進局はラジオのトーク番組を作ったり、男性向けのセミナーを開くなどの活動も行っています。

また 3P アプローチといって、地域の共同体で影響力のある人 (People)、私企業 (Private company)、公的機関 (Public sector) が協力し、HIV への誤解を解き、HIV とともに生きる人々 (People Living with HIV/AIDS) への偏見を減らすよう努力しています。2012 年、シンガポール国民雇用者連合は健康増進局と協力してワークショップを開きました、これにはのべ 14 万 5 千人の人が参加したそうです。

シンガポールの HIV/AIDS 政策は厳しいですが、早期発見に役立っているようです。

註 1, 2 詳しくは 2007 年 5 月のニュースレターを御参照ください。

http://www.jomf.or.jp/include/disp_text.html?type=n100&file=2007050101